

さいたま赤十字病院 院外報

かがやき

FREE
ご自由に
お持ちください

Vol. 64
令和 6 年度
1 号



Contents

- ▶ 令和6年度 さいたま赤十字病院 入社式 P2
- ▶ 就任のご挨拶 P3-5
- ▶ 創立記念日における休診のご案内（7月3日） P5
- ▶ 令和6年能登半島地震災害 さいたま赤十字病院 活動報告 P6
- ▶ 連携医療機関紹介 P7
- ▶ 初期研修医修了式 P8



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

さいたま赤十字病院



日本医療機能評価機構
認定第 JC528 号

令和6年度

さいたま赤十字病院 入社式

令和6年4月3日、入社式が執り行われました。

今年度は総勢167名（医師43名 初期研修医14名 看護師75名 コメディカル22名 事務13名）が新たに仲間入りしました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、会場に入る前には健康チェックを行い、会場を分散、オンライン中継する形での入社式となりました。新入職員の緊張した面持ちのなか式は進行し、日本赤十字社 社長からのメッセージが披露された後、清田院長から職員一人ひとりに辞令が手渡され、さいたま赤十字病院の職員として決意を新たにする瞬間となりました。また、清田院長より訓示が述べられ「当院は今年、開院して90周年を迎えます。これからも埼玉県の医療をリードしていけるよう、職員一丸となって働きやすく活気あふれる職場作りを目指しましょう」との激励の言葉がおくられました。

新たに迎えた職員とともに、人道・博愛の赤十字精神のもと、全職員一丸となって、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指し、安全・確実な医療の提供に取り組んで参ります。

人事課 澤田 真之



日本赤十字社 社長からのメッセージ



清田院長から1名1名に対して辞令交付





泌尿器科部長 小林 秀一郎

令和6年4月1日より泌尿器科部長を拝命いたしました小林秀一郎（こばやし しゅういちろう）と申します。

当院泌尿器科は今年度より常勤医4名、非常勤2名体制で毎日の外来、週2日の手術を精力的に行っています。手術においては、腎・尿管・膀胱・前立腺がんに対してロボット支援手術を導入しています。前立腺がんのロボット支援手術は確立された治療法で、安全かつ治療効果も良好です。また、膀胱がんに対し昨年よりロボット支援手術（全摘術）を開始しました。がんの状態次第ですが膀胱を全部取らずに治す膀胱温存療法（薬物療法（抗がん剤）＋放射線治療＋手術（膀胱部分切除））も行っています。ロボット支援手術は泌尿器科では最もポピュラーな手術の1つとなっていること、今年の1月には当院に2台目の手術支援ロボットが導入され、手術待機時間も短縮、また対象疾患も拡大されていることなどから、さらなるロボット支援手術の発展を目指しています。そのほか進行腎がんに対する免疫チェックポイント阻害剤を含む薬物治療、前立腺がんの遺伝子パネル検査、副腎腫瘍や後腹膜腫瘍、尿膜管遺残などの低侵襲手術や感染症、前立腺肥大症の治療も行っています。また、尿路結石に対する経尿道的尿路結石碎石術も増加傾向です。結石、尿路感染症、尿閉などの緊急受診もできるだけ対応いたします。

病診連携にも力を入れており、泌尿器科のスタッフ一同フットワーク軽く対応しますので相談等ありましたらお気軽にご連絡ください。



消化器内科部長 高橋 正憲

令和6年4月1日より消化器内科部長を拝命いたしました高橋正憲（たかはし まさのり）と申します。私は平成14年に千葉大学を卒業し、その後肝臓内科医として千葉大学大学病院で勤務しておりましたが、前任の部長である笹島先生にお声がけ頂き、平成24年度より当院に赴任、以後内視鏡医として診断・治療に従事して参りました。

当院は全国でも屈指のESD治療施設であったこともあり、これまで多数の内視鏡診断・治療を経験させて頂き、そして笹島先生の御指導もあり、現在では質の高い内視鏡診療を患者さんに提供できるようになったと自負しております。しかしながら、質の高い医療を患者さんに広く提供するためには私だけの力では不可能です。幸いにも、私の周りには熱意溢れる医師そして看護師がたくさんおりますので、今後は職種の垣根なくスタッフ全員で技術・知識の研鑽に励み、質の高い内視鏡診療を全員で実践できるよう尽力して参ります。

また、近年では併存疾患を抱える患者さんが多く、他科との連携は欠かせません。各科との連携強化も診療にとって極めて重要であることから、様々な診療科そして様々な職種との交流という点にも尽力する所存です。

地域の皆様に「消化器がんのこと、内視鏡検査・治療のことなら、さいたま赤十字病院！」といわれるような科となるよう努めて参りますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

就任のご挨拶

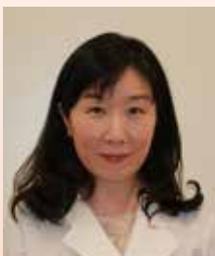


糖尿病内分泌内科部長 小澤 瞳

令和6年4月1日より糖尿病内分泌内科部長を拝命いたしました小澤瞳（おざわひとみ）と申します。私は平成20年に筑波大学を卒業後、当院にて初期研修を行い、東京大学糖尿病・代謝内科学教室に入局いたしました。同大学大学院で学位を取得し三井記念病院での勤務を経て、令和4年10月より当院で勤務させていただいております。

糖尿病をはじめとする代謝疾患の分野では続々と新規治療薬や医療機器が登場しておりますが、当科では診療ガイドラインに基づいた最新の治療に取り組んでまいります。また内分泌疾患は多臓器にわたりますが、幅広く対応できる診療を心がけております。甲状腺や副甲状腺疾患では耳鼻咽喉科、下垂体疾患では脳神経外科の先生方と連携し、診療を行っております。内分泌疾患は小児期や若い方に発症することも多く、学業や仕事と通院の両立に悩まれる患者さんの姿も見てきました。交通アクセスの良い当院で、質の高い医療を提供できるよう努力していく所存です。

ご紹介いただく際は早急に診察できるよう、令和5年5月より新患枠を増加し対応しております。それでも初診までの期間が長くなる際には、ご相談いただけますと幸いです。これからも地域の先生方との連携を密にして、生まれ育った埼玉県の医療に貢献したいと考えております。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



腫瘍内科部長 小林 心

令和6年4月1日より腫瘍内科部長を拝命いたしました小林心（こばやし こころ）と申します。専門はがんの薬物療法で、これまで国内のがん専門病院で長く、特に乳がんの薬物療法に携わってきました。

がんの薬物療法は日々めざましい進化を遂げております。乳がんに関して言えば、2000年台には、昨今の分子標的治療薬の先駆けでありますトラスツズマブが発売され、HER2陽性の早期乳がんの治癒率を劇的に改善しました。転移再発乳がんにおいても、様々な薬剤が開発され、生存率の向上に寄与しています。一方で免疫チェックポイント阻害薬の台頭により、高い治療効果と引き換えに、時に重篤な有害事象のコントロールに悩まされることもあります。我々腫瘍内科医の役割は、薬物療法の適応を判断し副作用をコントロールすることで、適切かつ安全な治療を遂行することにあります。

「がんの個別化治療」という言葉が注目されるようになってしばらくたちます。がん遺伝子パネル検査により新薬の治験につながる患者さんの数はまだ多くはありませんが、前職の経験を活かし治験や臨床研究にも積極的に参加していく予定です。

がんの治療は、手術・放射線治療・薬物療法を総合的に行う集学的治療が重要です。各科と連携しながら、患者さんが、がんになっても自分らしく生きるための伴走者のひとりでありたいと考えています。



形成外科部長 長谷川 弘毅

令和6年4月1日より形成外科部長を拝命いたしました長谷川弘毅（はせがわこうき）と申します。私は平成21年に弘前大学を卒業後、神戸大学形成外科に入局、平成27年より獨協医科大学形成外科へ赴任となり、昨年度から当院に着任いたしました。前任地では、外傷の治療・再建や、頭頸部がんなどの悪性腫瘍切除後再建を中心に診療を行ってまいりました。

当院は乳腺科の手術件数が埼玉県内でも非常に多く、現在は乳がん切除後の乳房再建に力を入れて取り組んでおります。

形成外科診療では、傷跡が目立たないよう、元の形態・機能になるべく戻し、さらに美しさも追及して形を造ることを目指しております。性別を問わず全年齢層において、また全身のあらゆる部位を対象として、見た目の問題で悩まれている患者さんの精神面にもアプローチしながら診療を行っております。

形成外科は他科との連携が多く求められる診療科です。例えば乳がん手術後の乳房再建手術では乳腺科と、先天異常のある子どもの患者さんは小児科や周産期科など、各科と連携を図り多職種によるチーム医療を行っております。

今年4月より、新たに1名の先生が加わりました。また、大学病院との連携も密に行い、より質の高い医療を提供できるように尽力させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

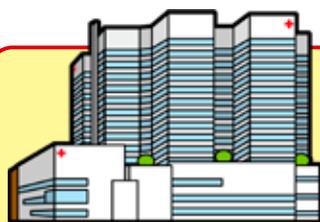


令和6年7月

さいたま赤十字病院は創立90周年を迎えます。

おかげさまで、当院は令和6年7月をもって創立90周年を迎えます。これもひとえに地域のみなさまをはじめとした当院を日々支えてくださる方々のご支援の賜物と心より感謝しております。

次号（令和6年度第2号）では当院のこれまでのあゆみについて特集予定ですので、ぜひご覧ください。



令和6年7月3日(水)は
創立記念日のため**休診日**となります。



令和6年 能登半島地震災害 さいたま赤十字病院 活動報告

令和6年1月1日、最大震度7を記録した石川県能登半島地震が発生しました。日本赤十字社では被災地支援のため、全国から日赤医療救護班等を派遣しました。

ここでは、本災害における当院の活動を報告させていただきます。

救護社会課
田村 勝

令和6年1月から3月にかけて下記の表のとおり、災害医療コーディネーターチーム、日赤医療救護班、ならびに病院支援要員を石川県へ派遣し、被災地支援を行いました。

当院では災害対応ができる医療チームを常備しています。今後も研修や訓練を行うことで体制を維持していきたいと思えます。

【能登半島地震における当院の派遣実績】

No.	派遣種別	派遣期間	派遣先	派遣人数	(内訳)			
					医師	看護師	薬剤師	事務
1	埼玉県災害医療コーディネーター	1月 1日 ~ 1月 1日	埼玉県庁	2名	1			1
2	日赤災害医療コーディネーターチーム①	1月 3日 ~ 1月 7日	石川県珠洲市	2名	1			1
3	日赤災害医療コーディネーターチーム②	1月 3日 ~ 1月 11日	日赤石川県支部	1名	1			
4	日赤災害医療コーディネーターチーム③	1月 14日 ~ 1月 21日	石川県珠洲市	1名	1			
5	日赤救護班 第1班	1月 17日 ~ 1月 22日	石川県珠洲市	9名	2	3	1	3
6	病院支援要員①	2月 1日 ~ 2月 7日	市立輪島病院	1名		1		
7	日赤災害医療コーディネーターチーム④	2月 2日 ~ 2月 11日	日赤石川県支部	4名	2			2
8	病院支援要員②	2月 6日 ~ 2月 12日	市立輪島病院	1名		1		
9	日赤救護班 第2班	2月 7日 ~ 2月 12日	石川県珠洲市	10名	3	3	1	3
10	病院支援要員③	2月 11日 ~ 2月 17日	市立輪島病院	1名		1		
11	病院支援要員④	2月 16日 ~ 2月 22日	市立輪島病院	1名		1		
12	日赤救護班 第3班	2月 20日 ~ 2月 25日	石川県珠洲市	10名	3	3	1	3
13	日赤災害医療コーディネーターチーム⑤	2月 28日 ~ 3月 5日	石川県珠洲市	3名	2			1

災害医療コーディネーターチーム

災害医療コーディネーターチームは被災地に集まる様々な情報や人的・物的資源を取りまとめ、適切に配置する等の調整業務を行い、支援体制を築きました。

日赤医療救護班

日赤医療救護班は、避難所や被災された方の自宅等で診察や健康管理を行うとともに、避難所の衛生環境等を調査しました。現地の状況を災害対策本部に伝達する情報収集業務の他、災害対策本部や県、市役所からのお知らせを被災者へ届ける役割も担いました。

病院支援職員

病院支援要員は、被災地域の病院業務をサポートするために派遣されました。支援が必要となる診療部門経験がある看護師が支援に入ることによって、病院機能維持の他、現地病院職員の休憩時間確保等に貢献しました。



連携医療機関紹介

当院では地域医療支援病院としての責務を果たすべく、地域のかかりつけ医の先生方からの紹介患者さんに対し、専門的な治療や救急医療の提供を行っております。

ここでは当院の心強いパートナーである医療機関をご紹介します。



クリニック 医療法人 大宮シティクリニック (かかりつけ医)



院長：中川 高志

住所：さいたま市大宮区桜木町 1-7-5
ソニックシティビル 30F

TEL：0570-039-489 (代表)

診療科：各種健康診断・一般内科

休診日：土曜午後・日祝・年末年始



※詳細についてはホームページをご覧ください。
<https://www.omiyacityclinic.com>

開業 40 周年

当クリニックは、1983 年に開業し昨年で 40 周年を迎えました。人間ドックをはじめとした各種健康診断と外来診療を行っております。

健診はチャンスです

健康診断は受診者様にとって自身の健康状態を知るための大切な機会であるとの想いから「健診は、チャンスです。」というスローガンを掲げています。

健康寿命延伸・病気の早期発見のために、AI による内視鏡検査の補助診断や胸部レントゲン画像の読影等新たな医療サービスの提供にも力を入れています。

居心地の良い空間を提供

ソニックシティビルの 30F からの素晴らしい眺望の中、居心地の良い空間で安心して健康診断を受けていただけます。



連携病院 医療法人 聖仁会 西部総合病院



院長：犬飼 敏彦

住所：さいたま市桜区上大久保 884

TEL：048-854-1111

診療科：内・呼内・循内・神内・消内・糖内・外科・
消外・肛外・乳外・整・皮・脳外・形・泌・
眼・リハ・麻



※詳細についてはホームページをご覧ください。
<https://www.skmg.jp/seibu-hp/>

地域密着型病院として地域医療に貢献

昭和55年に130床で開設後、現在は倍増の264床の病院に発展しました。「病める人に対しよき奉仕者たれ」を院是としています。

地域包括ケアシステムの中核病院を目指して

4機能病床、すなわち「急性期病床」、「地域包括ケア病床」、「回復期リハビリテーション病床」、「療養病床」を構築し、ケアミックス型病院として活動しています。

老年病、生活習慣病の充実に注力

糖尿病を軸に老年病、生活習慣病の充実に注力しています。糖尿病推進チーム(DPT)が糖尿病教育バス入院、フットケアなどでチーム活動を積極的に展開しています。





初期研修医修了式

令和6年3月22日、当院で研修を終えた初期研修医15名の修了式を行いました。当日は天候にも恵まれ、修了証授与の後は屋上のヘリポートで院長、研修管理委員長とともに写真撮影を行い、2年間の研修を締めくくることがとなりました。決して楽なことばかりの日々ではなかったと思いますが、院内、院外問わず様々な方からのご協力もあり、無事に全員が研修を終えることができたことを教育研修担当一同、非常に喜ばしく思います。

卒業後はそれぞれの道で研鑽を積んでいくこととなりますが、健康で無理のない日々を送れることを願っております。皆様におかれましても、これからも当院の初期研修医の活躍を見守っていただきますよう、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

人事課 教育研修係
諸井 崇人



さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 健康経営を推進し、働きやすく活気あふれる職場作りに努めます。
6. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないよう行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。